

【第3回佐賀県豚熱対策会議】 8月30日（水）20:00

農林水産部長／国から患畜決定の連絡があった。20時をめぐりに殺処分等の防疫措置を開始する。

現在の動員予定数は、殺処分に県職員、市町職員で44名。農場の消毒は県職員、市町職員等13名。埋却は建設業協会に依頼し、県職員も含め30名。総務も含め計116名で防疫作業に当たる。

消毒ポイントは畜産関係車両で2か所、一般車両で4か所。JAからつは、同じ場所を両方向うため、消毒ポイントは5か所。消毒の開始時刻は、改めて報告する。

発生地域周辺の捕獲イノシシの検査を強化している。死亡イノシシを発見した場合の情報提供も依頼。今年の4月以降の調査で、死亡イノシシの報告はない。捕獲イノシシの検査結果も全て陰性。狩猟・有害駆除を行う人には、消毒の徹底を呼びかけている。

知事／陽性が確定し、殺処分からの埋却までの流れを実施することになる。
農林水産部長／殺処分、埋却、豚舎のふん尿も処分する。

防災監／20時から殺処分に着手。夕方、雨が降ったため、地面がぬかるんでいる。安全第一で作業を進めたい。

唐津市長／先月の豪雨災害、今回は家畜伝染病が発覚。再度、当局の皆様にご支援いただきことになった。私たちも力を合わせて収束に向けて尽力したい。執行部の皆様のお力添えをお願いします。

知事／ほかへの感染拡大は？

農林水産部長／通常より死亡の豚が多いと、ある農家から報告があり検査中。結果が出たら報告する。

知事／通常、単独では終わらない。広がる可能性を含め、対応策を講じる必要がある。

先ほど、現場に行った。作業する豚舎は狭く、ぬかるんでいる。種豚という母豚は、とても大きい。それを豚舎から出して処分するのは、至難の業だと感じた。

その隣に埋却する穴を建設業協会の皆さんが、ユンボで掘っていた。唐津の建設業者にとっては初めてのことで。鳥とは違う厳しさ、夏の作業の厳しさがあるため、夜の作業にシフトするのは合理的。ただ、夜の作業も難しさがある。現場近くに拠点を1

か所作り、巡回してフォローしたほうがいい。

防災監／泉総務部長に、現場まで1kmほどの東山公民館に駐在してもらっている。

知事／1時間に1回は巡回し、作業の状況を確認してほしい。何かあったらすぐ連絡を。順調に進むと、450頭の処分終了は何時頃？

副知事／明日の8時頃までに埋却まで済ませたい。

知事／作業進捗、周辺部の検査に注視しておくこと。

農林水産部長／養豚場が密集する地域のため、巡回も含めて警戒していく。

知事／長丁場になる可能性もあるため、今から準備をして乗り切りましょう。

健康福祉部長／県と唐津市から保健師を派遣し、現場の職員の健康管理をサポートする。現地のテントとサポートセンターに駐在中。

知事／夕方に行ったので、車の通行量が多かった。問題になるなら、警察に依頼するなど、状況に応じて対応してほしい。

副知事／現在、農林事務所の職員を動員して交通整理をしている。警察とも連絡を取り、適切に対応したい。

農林水産省／九州では初めての発生。迅速に封じ込められるよう国も連携していきたい。

知事／長丁場になる可能性が高いので、よろしく願います。